

第21回医学情報サービス研究大会参加記

今西 美子

2004年7月3日(土)～4日(日)に東京国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第21回医学情報サービス研究大会が開催されました。

今回の参加者は、最終的に356名で過去最高の人数となり、活気に溢れていました。大会ロゴマークは、金魚の「きんちゃん」。東京大会らしく、「江戸の夏」や「江戸の粋」を表現されたようで、とても可愛らしく親しみが感じられました。きんちゃんグッズの手拭いとトートバッグを買ってしまったほどです。

今回は、大会までに参加者にメールマガジンを配信されたので、事前に色々な情報が得られ、大会に行くのが楽しみになりました。大会情報はもちろん、東京の観光情報など、きめ細かな気遣いが感じられました。

大会は、参加者自身の研究発表を中心にしたプログラムで、口頭発表22題は、「EBM」「専門職の教育・学習」「情報分析」「患者・一般情報サービス」「看護情報」「図書館サービス」と、いずれもトピック性の高いセッションで構成さ

れていました。

ポスター発表も過去最多の12題と、多岐にわたった話題を見ることができました。

また、大会前に継続教育コースとして「ヘルスサイエンス図書館員の基礎知識」「米国のEBMを支える情報サービス」は、スキルアップを目的とした医学情報入門と最近の動向を把握できる医学情報トピックスで、図書業務に携わって2年ほどになる私にとって大変勉強になりました。

今大会は、特定のテーマは設けられていませんでしたが、その根底に流れるものは「Learning from each other」、やはり医学情報サービスに関わる者自身が勉強することであると思います。この研究大会にこれからもずっと参加して、日常の仕事に生かしていきたいと思いません。

最後になりましたが、東京大会の実行委員を始め、この大会に携わった方々に、心から感謝いたします。

